

広島キャンパス大学祭『盛幟祭』～ memory ～

7月18日(土)・19日(日)に第4回大学祭～盛幟祭～を開催しました。広島キャンパスにて4年目となる大学祭のサブテーマを「memory」としました。地域の方々の関係を深め、さらにその関係を強め、学生のみならず、地域の方々の良い思い出を作れるような大学祭にしたいという思いを込めました。

今年は、初の試みとして、真夏に大学祭を2日間開催し、15階の幟町カフェにステージや模擬店を設置し、特別ゲストとして、広島FMラジオなどで活躍の「大窪シゲキ」さんによる特別講演会&ディスカッションや「安芸戦士メープルカイザー」によるヒーローショーを開催しました。また、本学のヒューマンハーモニックズ部やダンス部、エリザベト音楽大学や比治山大学、広島文化学園大学の学生もステージイベントや模擬店出店に参加するなど、大いに盛り上がりました。

また、18日(土)には、4回目の開催となる「夕涼み会」を同時開催しました。「夕涼み会」では、スーパーボール掬い、ヨーヨーつり、射的、輪投げ、うちわデコレーション、缶バッジ作成などを無料で楽しめるイベントを開催し、学生も浴衣に着替えて子どもたちや地域の方々と一緒に楽しみ、今年も大盛況でした。



幟町ギャラリー『幟町と佐々木禎子展』特別講演会を開催

7月29日(水)、幟町ギャラリー『幟町と佐々木禎子展』の特別講演会を開催し、「原爆の子の像」のモデルとして知られる佐々木禎子さんの小学校時代の友人である川野登美子さんを招聘し、講演していただきました。

「当時、貞さんは足が速く、リレーの選手と一緒に練習をしていたのに、急に病院へ入院することになり、小学校に来なくなりました。そして中学には一度も登校できず、12歳の若さでこの世を去りました。」「病室でどんな思いで鶴を折っていたのか?」「なぜ禎子さんは12歳の若さで亡くならなければならなかったのか?」など、当時の思い出とともに友人への思いを語られました。

講演会には、医療経営学科の学生だけでなく、地域の方々にもご参加いただき、川野さんの語りに熱心に聴き入り、被爆70年を迎えた今年、今一度、広島で生きることの大切さを学ぶことができました。



講演会に先立ち、黙祷を捧げました



学生たちに佐々木禎子さんの思いを語る川野さん

幟町学区子ども会主催「幟へきん祭」に参加し地域貢献!

8月22日(土)、幟町小学校グラウンドで幟町学区子ども会主催の「幟へきん祭」が開催され、医療経営学部の学生は、事前打合せから参加し、祭りの準備、模擬店(かき氷)の出店、バルーンアート体験教室、後片付けなどに関わり、子どもたちや地域の方々と一緒に祭りを企画・運営し、盛り上げました。



かき氷



バルーンアート

当日販売したかき氷は、暑さのおかげもあり、大盛況でした。バルーンアート教室では、学生が子ども達と一緒に子犬や花などの作品を作り、子ども達の楽しそうな顔が見られました。また、熱中症対策として、子どもに予防チラシと塩飴を配布しました。学生の模擬店での売り上げは、すべて幟町学区子ども会に寄付し、これからの地域の活動に役立てていただくことにしました。